

# KDDI Foundation

公益財団法人KDDI財団 機関誌

vol.4  
APRIL 2013



# 2013年を迎えて



理事長

伊藤 泰彦

(KDDI 株式会社 顧問)

皆さま如何お過ごしでしょうか。財団の2013年は、カンボジア訪問で始まりました。訪問の目的は財団寄贈の8校目となる小学校新校舎の開校式への参加です。第2の目的は3年前に開校したチョップ村小学校の再訪です。ところが、予期せぬことに最初の驚きは訪問前日に宿泊したシェムリアップ(アンコールワットで有名な都市)の変容でした。記憶していた街の様相は一変し、通りを歩く観光客、店、自動車の数が明らかに倍以上に増えているのです。ネット上の資料では、シェムリアップ州の人口約89万のうち、数十万はシェムリアップに集中しているとの報告もあります。加えて、年間のアンコールワット訪問者数も200万人超ですから街の賑わいは3年前の比ではありません。村も変わってしまったのでしょうか。

## 素晴らしかった開校式

最初の行先はバンテミエンチャイ州キレック村。アンコールワットから北西に100km、タイ国境へ10kmの村です。ここに8校目のKDDI小学校が完成し開校式が行われました。生徒数は約500人とKDDI財団が支援する学校としては比較的大きな部類です。しかし、生徒数の増加に教室の数が全く不足しているとのこと。

シェムリアップを7時に出た我々の車は、どこまでも直線的に伸びる国道5号線を西へ走ること約2時間。両側は見渡す限りの水田。時々現れる集落は、バラック建ての店舗や丸テーブルとプラスチックの椅子の並ぶ中華料理店が点在する典型的な東南アジアの街道風景です。貧困ではあるがどこかゆったりと、ここでも経済の成長が続いていることが分かります。しかし、1998年のポル・ポトの死によって過去の悪夢から離別したカンボジアにとって、人口、教育、物資すべてが不足していることも明白な事実です。

小学校では、卒業まで残る子供は約半分。引き続き、中学に進める子供たちは34%なのです。

小さな集落を過ぎ、左へ曲がる土埃道をたどること数km、突然、草むらを分ける横道にずらりと立ち並ぶ子供たちの歓迎を受けました。キレック小学校でした。日除けシートの下には数百人の子供たちと親御さん。開校式はいつものように、お坊さんの祈祷が始まります。今回のサプライズは十数人の子供たちが歌う日本語の歌でした。どことなく抑揚がないように感じられるのは、カンボジアでは音楽の授業がないためとか。

私の挨拶、続いて絵本を寄贈されたNPO団体・クロスワイズ理事長・横井恵子さんの祝辞が述べられ、子供たちに励ましのエールが送られました。教室に移り、一人ひとりに文房具を手渡すと恥ずかしそうに「ありがとう!」と小さい声で応える姿は、本当にかわいらしい。横井さんご自身が書かれた童話の絵本を配り、お土産の風船やシャボン玉を実演すると教室中が拍手で大喜び。これまでの長旅の疲れが消える瞬間でした。

## 与える側の論理、受け取る側の論理

海外支援の形態は数多くあります。KDDI財団の手掛けるものだけでも、留学生支援、技術支援、各種研修、調査研究助成、国際会議助成などがあります。この中で、カンボジアに対する学校建設の助成は財団でも非常に特殊なものとして映ることでしょう。毎年1回、クラシックコンサートを開催し、その売り上げを寄贈し、学校の不足する地域に年1校ずつ小学校を建てるというプロジェクトが始まったのは8年前です。

こんな話を聞いたのは、午後に訪問



した、シムリアップから北へ30km、チョップ村への再訪問の時でした。この村は、国道を離れ、凸凹の悪路を2時間。依然として電気、ガス、水道は未整備です。私がここを訪れたのは開校式が行われた3年前のことです。道は狭く、処々見かける家はトタンづくりの貧しいものでした。その状況には大きな変わりはありません。KDDI財団の建てた校舎に入り、生徒たちと旧交を温めると、何人かの子供は私達のことを覚えていてくれました。嬉しい限りです。

しかし、改善すべき点も見つかりました。それは、多くのPCと周辺機器、インターネットへの接続のために設置した発電機です。発電機は電気機器を動かすたびに稼働しなければならず、財団の経費援助なしでは稼働のための燃料費が学校の大きな負担になるという問題です。これを避けるためにはソーラーバッテリーのように一度設置すれば継続的なコストが最小となるよう当初からの配慮が肝要でした。

現地NPOの担当者や先生達と交えた雑談でもこんな本音が述べられたのです。この国は、多くの国から多くの援助を受けている。しかし、その大半は有効に利用されていない。例えば、カンボジアの気候は農耕には最適でコメの3毛作4毛作だって可能だ。問題は治水だがこれはお金も時間もかかる。だが、肥料の調達、揚水ポンプなどきちんと実態を調べ順序立てて改革をはかればもっと生産性はあがるはずだ。

つまり、彼らの主張は、役人が（それに加えて援助を計画する国も）フィールドに出て現実を見る努力が足りないということなのです。政治は？と水を向けると、政争に明け暮れているとにべもない返事。どこの国も同じですね。では、チョップ村の学校は？と聞くと、学校については非常に感謝している。実は、この辺りの村落では本当は食料も不足しているのだ。しかし、国の将来を考えれば、一時的な効



「小さな美術スクール」で子供たちと談笑

果の食料や現金よりも、永続的に国の人材を生み出す学校の重要性は計り知れない。とはいえ、例えば、複雑なシステムが寄贈され、これの保守費が毎年発生する場合は、逆に村の負担となり、早晚利用されなくなる。援助を与える側の論理と受ける側の論理が必ずしも一致しないこともあるという事実です。

これは、なかなか耳の痛い指摘でした。頭の中では理解しているのだが、受け取る側の状況を理解しなければ、結局は絵にかいた餅を贈ってしまうことになる。

### 互いに持続可能な援助を

今回の訪問では、カンボジアに住み市井の中で援助を続ける人たちにもお会い出来たことも大きな収穫です。シムリアップ市内で私財を投げうち小さな美術学校を開く笠原先生は、近隣の子供たちに無料で美術を教えています。子供たちは、自由な題材で自由な発想で絵を描きます。先生は最後に、「ここはこうするともっといいよ。来週またね！」と短いコメントをします。この生徒たちの絵は実に素晴

らしいのです。こんな先生に習ったら私ももっと絵が好きになったかもしれません。2月開催のチャリティーコンサートのパンフレットの絵はこの生徒であるハイ君が描いたものでした。

もう一人は消滅寸前であった伝統の影絵芝居の復興を個人的に支援する福富さんです。チョップ村で行われた影絵の公演は福富さんのご協力を得て開催しました。カンボジアの影絵は等身大の影絵人形を操り、焚き火の光で大画面の両面を使う迫力のある上演です。演じられるテーマは主として、インド発祥のラーマーヤナ物語。チョップ村でも気が付けば、暗闇の中、大半の村人が集まっておりました。

今回のカンボジア訪問では、現地草の根活動を続ける方たちとの出会い、財団の学校建設活動に賛同頂ける方など、様々な方達との協力で行われました。改めてこれらの方々に御礼申し上げます。KDDI財団では、現地を自分の目で見えることを基本として、常に改善し相互の理解を深める「持続可能な海外支援」を続けていきたいと考えています。30年後に国を支える人達への一助となることを願いながら。

## ◎ 優秀研究賞

研究テーマ	所属 / 代表研究者	表彰額(千円)
PRACTICAL ASPECTS OF CHANNEL ESTIMATION IN RELAY-ASSISTED WIRELESS NETWORK	東北大学大学院 工学研究科通信工学専攻 教授 安達 文幸	400
合 計	1 件	400

## ◎ 調査研究助成

研究テーマ	調査研究代表者	期 間	助成額(千円)
クラウドに対するユーザ受容の国際比較研究	専修大学 社会関係資本研究センター ポストドクター 田中 康裕	2013年4月1日～ 2014年9月30日 1年6ヶ月	1,900
プライバシー・個人情報保護をめぐる アメリカとヨーロッパの衝突	駿河台大学 法学部法律学科 准教授 宮下 紘	2013年4月1日～ 2016年3月31日 3年	2,850
ツイッター上の情報流による世論形成過程	立正大学 経営学部・経営学科 准教授 山本 仁志	2013年4月1日～ 2015年3月31日 2年	2,850
日本における情報ガバナンスの国際比較	慶應義塾大学 法学部・政治学科 教授 粕谷 祐子	2013年4月1日～ 2016年3月31日 3年	2,850
ICT 支援南方仏教文化研究と情報発信	仙台高等専門学校 総合科学系 准教授 笠松 直	2013年4月1日～ 2015年3月31日 2年	2,800
化合物半導体によるメタマテリアル機能素子	東京工業大学 量子ナノエレクトロニクス研究センター 助教 雨宮 智宏	2013年4月1日～ 2015年4月1日 2年	1,900
全光直交周波数分割多重技術に関する研究	立命館大学 理工学部・電気電子工学科 教授 瀧口 浩一	2013年4月1日～ 2016年3月31日 3年	2,850
超広帯域レーダによる超分解能立体画像化法	電気通信大学大学院 情報理工学研究所 助教 木寺 正平	2013年4月1日～ 2015年3月31日 2年	2,850
協同の学習活動を支援する対話エージェント	筑波大学 図書館情報メディア系 特任助教 林 勇吾	2013年4月1日～ 2016年3月30日 3年	2,700
ファジィ強化学習 VANET 通信プロトコル	電気通信大学大学院 情報システム学研究所 助教 策力 木格	2013年4月1日～ 2015年3月31日 2年	2,400
合 計		10 件	25,950

## ◎ 社会的・文化的諸活動助成

活動名	活動団体名	実施時期 / 場所	助成額(千円)
ネパールにおける情報通信技術を用いた美容の遠隔職業訓練事業	一般社団法人 Coffret Project	2013年4月1日～12月31日 ネパール・カトマンズ	680
故郷の町と失われたコミュニティーの復活を目指す新しい情報発信事業	NPO法人メディアージ	2013年6月1日～2014年6月30日 福島県南相馬市／双葉郡双葉町／浪江町	730
フィリピンのスラム街で、自営業者を黒字経営させるためのオンライン教育事業	NPO法人 Class for Everyone	2013年5月5日～8月31日 フィリピン タギッグ市	720
ソフトウェア開発訓練による在宅就業支援	NPO法人ネクサスしまね	2013年4月10日～2014年3月31日 島根県	700
「海外の日本庭園」に関する総括的情報ウェブサイトの構築と運営	東京農業大学 国際日本庭園研究センター	2013年4月～2014年3月 東京都	730
ウェブサイトを使った少数民族の子どもたちの民族語習得支援及び成果と課題の共有化	NPO法人メコン・ウォッチ	2013年4月1日～2014年3月31日 タイ、クロンブルー、タキアントーン村	360
こねて、つくって、動かそう。チャレンジ！クレイアニメワークショップ	HANAクレイアニメ研究会	2013年4月1日～2014年1月15日 京都市	720
グローバル時代と異文化理解ー伝えたー私たちの文化ー	NPO法人 クロスカルチャーメディア	2013年4月15日～2014年5月31日 ネパール・カトマンズ・日本国内	670
バリ島の先住民村落のデジタル・ミュージアム建設にむけた若手人材育成プロジェクト	NPO法人 ジェイビー・アート・リソース・イノベーション	2013年4月1日～2014年6月30日 バリ島	720
震災復興支援ユニバーサルメニュープロジェクト	NPO 団体アスコエ	2013年4月1日～2013年9月30日 東京	370
合 計		10 件	6,400



## ◎外国人留学生助成

研究テーマ	氏名／所属	国籍	助成月数	助成額(千円)
特別支援教育におけるデジタルデバイド解消のための情報化の現状と課題	李 璿熙 イ ソンヒ 東北大学大学院 教育情報学教育部	韓国	12ヶ月	1,200
寺山修司：コミュニケーションとしての演劇	Diaz Sancho Ivan ディアス サンチョ イヴァン 京都大学大学院 文学研究科	スペイン	12ヶ月	1,200
マイレージプログラムのネットワーク分析	林 相熏 イム サンフン 東京大学大学院 学際情報学府	韓国	12ヶ月	1,200
Japan's Peacebuilding Diplomacy and Aid: The Cases of Afghanistan and East Timor	Erkan Kivilcim エルカン キビリチム 神戸大学大学院 法学研究科	トルコ	12ヶ月	1,200
Adaptive Search Engine	Yongpisanpop Papon ヨンピサンポップ ハボン 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	タイ	12ヶ月	1,200
e-Learning Material	Batista George Moroni Teixeira バチスタ ジョージ モロニ テイシェイラ 名古屋大学大学院 情報科学研究科	ブラジル	12ヶ月	1,200
医用画像の準可逆圧縮アルゴリズムの開発	Zoha Morsalin Uz ゾハ モルサリン ウズ 早稲田大学大学院 国際情報通信研究科	バングラデシュ	12ヶ月	1,200
ウェブ機能に基づく安全で高度な 連携システムの自動生成方式の研究	高 鵬 コウ ホウ 東京工業大学大学院 情報理工学研究科	中国	12ヶ月	1,200
ICT Innovation Policy	Saleem Ayesha サリム アヤシャ 早稲田大学大学院 国際情報通信研究科	パキスタン	12ヶ月	1,200
飛行体を用いた蓄積運搬型センサーネット ワークシステム	Tran Thi Ha Phuong チャンチ ハフオン 長岡技術科学大学大学院 工学研究科	ベトナム	12ヶ月	1,200
合 計			10 件	12,000

## ◎日本人海外留学生助成

研究テーマ	氏名／所属	留学国	助成額(千円)
フランス・ジャーナリズムと『悪の華』	佐々木 稔 名古屋大学大学院 文学研究科フランス文学第一研究室	フランス	2,000
原子間力顕微鏡の探針修飾による分析法開発	那須田 真之 東京工業大学大学院 理工学研究科物質科学専攻	スイス	2,000
合 計		2 件	4,000

## ◎ 国際会議開催助成

会議名	主催団体名	開催期間 / 開催地	助成額(千円)
第5回 ITU カレイドスコープ学術会議 The 5th ITU Kaleidoscope academic conference	京都大学、ITU	2013年 4月22日～24日 京都市	800
レーザー・エレクトロ-opticsに関する環太平洋会議、ならびに光エレクトロニクス・光通信国際会議／フォトンicsスイッチング国際会議 2013The Pacific Rim Conference on Lasers and Electro-Optics & OptoElectronics and Communications Conference/International Conference on Photonics in Switching 2013	レーザー・エレクトロ-opticsに関する環太平洋会議 / 光エレクトロニクス・光通信国際会議 / フォトンicsスイッチング国際会議	2013年 6月30日～7月5日 京都市	800
情報通信学会設立30周年記念 第30回国際コミュニケーション・フォーラム The 30th Communication Forum	公益財団法人情報通信学会	2013年 11月22日 東京都	800
第18回マイクロ-optics国際会議 / 18th Microoptics Conference、MOC'13	公益社団法人応用物理学会	2013年 10月27日～30日 東京都	800
第20回アクティブマトリックス フラットパネルディスプレイ国際会議 2013 The Twentieth International Workshop on Active-Matrix Flatpanel Displays and Devices -TFT Technologies and FPD Materials - (AM-FPD'13)	公益社団法人応用物理学会	2013年 7月2日～5日 京都	800
アジア太平洋 合成開口レーダ国際会議 2013 Asia-Pasific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR) 2013	電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ IEEE Geoscience and Remote Sensing Society (GRSS) Japan Chapter	2013年 9月23日～27日 つくば市	800
第2回パターン認識に関するアジア会議 The 2nd Asian Conference on Pattern Recognition (ACPR2013)	ACPR2013 実行委員会	2013年 11月5日～8日 那覇市	800
第16回 II-VI 族化合物および関連材料に関する国際会議 16th International Conference on II-VI Compounds and Related Materials	(独) 日本学術振興会 光電相互変換第125委員会	2013年 9月9日～13日 長浜市	800
合 計		8 件	6,400

## ◎著書出版助成

出版物名	氏名／所属	出版時期	助成額(千円)
プライバシー・個人情報保護法の現在と未来 ～ライフログとマイナンバー法の共通課題～ (仮題)	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授 石井 夏生利	2014年7月	2,000
ネットワーク・メディアの経済学 ～メディア融合と進化～(仮題)	近畿大学 経営学部 准教授 春日 教測	2014年7月	2,000
合 計		2 件	4,000

## ◎海外学会等参加助成

参加学会名	氏名／所属	開催時期	助成額(千円)
International Telecommunications Society (Thailand)	静岡大学 情報学部 講師 高口 鉄平	2012年11月18日～21日	250
9th Asia-Pacific Symposium on Information and Telecommunication Technologies (Chile)	大阪大学大学院 工学研究科 笹田 直利	2012年11月5日～9日	381
合 計		2 件	631

## CONTENTS

Vol. 4 APRIL 2013

- 巻頭エッセイ
- 01 **2013年を迎えて**  
伊藤 泰彦 理事長 (KDDI株式会社 顧問)
- 02 **2012年度 助成・援助対象者**  
優秀研究賞 / 調査研究助成 / 社会的・文化的諸活動助成 /  
外国人留学生助成 / 日本人海外留学生助成 /  
国際会議開催助成 / 著書出版助成 / 海外学会等参加助成
- 07 **2013年度公募のお知らせ**  
2011年度 KDDI 財団優秀研究賞
- 08 **携帯広告におけるプライバシー漏洩不安**  
岡崎 伸太郎  
スペイン国立マドリッド・アウトノマ大学 経済経営学部 教授
- 助成・援助対象者からの報告  
◎ 日本人留学生助成
- 10 **カリフォルニアの青い空の下で**  
石川 恵理奈 京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻
- ◎ 外国人留学生助成
- 12 **夢を実現するためにチャレンジしないと**  
TSOY Tatyana 筑波大学大学院 人文社会科学研究科 国際地域専攻
- ◎ 社会的・文化的諸活動助成
- 14 **印刷されている文字を読むことが困難な方に、  
生活に必要な情報を！**  
藤本 明成 特定非営利活動法人 ういすたりあぶつく 代表
- 16 **KDDI 財団の活動**
- 18 **雑 感**  
**Message from Myanmar**  
— Myanmar, its beauty and its nature —  
Saw Htoo Thar  
Assistant General Manager,  
Communication Compound, Bago Division,  
Myanmar Posts & Telecommunications (MPT)



Cover Photo:カンボジア・シエムリアップにある「小さな美術スクール」にて。チャントーンちゃん、11才。

# 2013年度公募のお知らせ

2014年4月以降に実施されるものが対象となります。

## 調査研究助成

### (1) 対象

情報通信の普及・発展に寄与する調査研究（法律、政治、経済、社会、文化、技術の各分野あるいは各分野にまたがるもの）を対象とします。特に、新規分野での独創的な研究や若手研究者の研究、国際共同研究および学際研究の申し込みを歓迎します。

ただし、通信事業者等の本来業務に該当する調査研究は対象外。

調査研究期間は、1年～3年まで（ただし2017年3月までに終了のこと）。

助成・援助の申込者は、個人の場合は調査研究者本人、グループの場合は代表者。

### (2) 助成・援助金額等

1件あたり最高300万円まで。10件程度。

## 特定地域 調査研究助成

新設

### (1) 対象

ICT分野において国際社会の発展に貢献するとともに我が国と現地とのつながりに寄与することを目的とし、特定地域（主に政府開発援助対象国）に滞在し通算1年以上3年までの調査研究を実施する活動を助成します。大学、研究機関に属する研究者、大学院生を対象（グループ研究可。研究は2017年3月までに終了のこと）とします。

ただし、通信事業者等の本来業務に該当する調査研究は対象外。

助成・援助の申請者は個人の場合は調査研究者本人、グループの場合は代表者

### (2) 助成・援助金額等

1件あたり最高200万円まで。最大2件程度

## 国際会議開催助成

### (1) 対象

情報通信の普及・発展に寄与する国際会議で、先端技術にかかる課題から法制度や政策・技術の利活用など、幅広い分野での会議を対象とします。

ただし、通信事業者等の本来業務に該当する国際会議は対象外。

2014年4月から2015年9月の間に開催される会議であること。

### (2) 助成・援助金額等

1件あたり最高80万円まで。5件程度。

## 社会的・文化的 諸活動助成

### (1) 対象

情報通信を利用し社会や教育等の発展に貢献する各種の「草の根」活動を対象とします。地域社会の国際化につながるような各種の活動、通信を通じて社会に貢献する各種の文化事業。通信の普及・発展、あるいは国際間相互理解の促進に寄与する活動・事業など（たとえば、イベント、講演会、ボランティア活動）。

ただし、通信事業者や地方自治体等の本来業務に該当するものは対象外。

2014年4月から2015年9月の間に実施されるもの。

### (2) 助成・援助金額等

1件あたり最高100万円まで。10件程度。

## 申込受付：7月中旬（予定）

\*詳細はホームページでご案内いたします。

ホームページより所定の申込書をダウンロードし必要事項をご記入の上ご提出ください。申込書は毎年更新いたしますのでご注意ください。申込書が入手できない場合には、財団にご請求ください。

## 助成・援助の採否

審査委員会の審査を経て、2014年3月に開催予定の理事会で採否を決定します。この際、助成・援助希望金額は減額されることもあります。決定通知の金額で実施できないと判断されるときは、速やかに辞退を申し出てください。

## お問い合わせ・申込書請求・申込書送付先

公益財団法人 KDDI 財団

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー 6F

E-mail: grant@kddi-foundation.or.jp（お問い合わせはEメールで受け付けます）

http://www.kddi-foundation.or.jp

## 留学生への援助

KDDI 財団では、日本国内で学ぶ外国人留学生、海外での研究を志す日本人の留学生をサポートしています。いずれも当財団が指定する大学もしくは大学院に在籍し、学校より推薦された35歳以下の学生が対象です。

外国人留学生につきましては、情報通信関連の研究を進めていることを条件とし、月々10万円、最長1年間の援助をいたします。

日本人の海外留学支援につきましては、開発途上国への留学希望者を優先し、年最大200万円を援助いたします。

本賞は、当財団の助成を受けて調査研究を実施された方の中から、優秀な成果を発表された方を表彰するものです。昨年度の受賞者の岡崎氏に研究成果の概略を執筆いただきましたので、ご紹介いたします。

# 携帯広告における プライバシー漏洩不安

スペイン国立マドリッド・アウトノマ大学 経済経営学部 教授

岡崎 伸太郎 Shintaro Okazaki



フィッシングという言葉を知ったのは五年ほど前のことだろうか。「釣り」の fishing の「f」を、ハッカーがスラング的に「ph」に変えたのが語源らしい。いわゆるインターネット上の詐欺行為のことを指し、有名企業を騙って「ユーザーアカウントの有効期限が近づいています」や「新規サービスへの移行のため、登録内容の再入力をお願いします」などというメールを送りつけ、クレジットカードの会員番号や銀行預金口座の ID やパスワードを騙し取ることを目的とする。

まさか自分がその標的になるとは思わなかったが、ある日突然ペイパルから「不審な第三者があなたのアカウントから支払いを試みた」との連絡があった。ペイパルというのは世界中で利用されている決済サービスで、海外でのショッピングやビジネスの支払いに利用できる。以前からペイパルを装った偽メールが来ていたが、それらに返信したことはもちろんない。コンピュータがハッキングされたのか調べてもらったが、その形跡もない。しかし同時期に同じような被害にあった親しい友人が、携帯にダウンロードして使っていたアプリからどうも個人情報が漏れたらしいという。よく話を聞いてみると、彼の使っている Android 搭載のスマートフォンは自分も愛用している機種で、さらにそのアプリも去年ダウンロードしていたことがわかった。

KDDI 財団の助成研究を計画したのは、過去にそういった経験があったからである。インターネットを用いた電子商取引の不法行為が逐次マスコミを賑わせ

ている一方、携帯電話での不法行為はあまり報道されていない。しかしデスクトップから接続したインターネットと携帯から接続したインターネットは「ユビキタス」という観点から基本的な相違がある。携帯電話からは「いつでもどこでも」ネットに接続できる上、アプリやコミュニケーションの操作がタッチスクリーン上で気軽に行える。そうしたあまりにも簡単な操作がかえって消費者に不安を呼ぶのではないだろうか。たとえば移動中に GPS を操作するような場合や屋外でメールを送信するような場合、「目に見えない」第三者に情報が漏洩してしまわないだろうか。

文献を探していくとネット上の不法行為や SPAM に関する研究の理論的基礎となっているのがプライバシーの漏洩不安という概念であることに気づいた。諸悪の根源は企業が消費者の個人情報、すなわちプライバシーを流用してしまうという点にある。懸賞の応募やメルマガの登録に消費者は個人名や住所、メールなどを記入するが、それらのデータがめぐりめぐって悪用される。こうした現象を携帯を使った電子商取引、つまり M コマースの見地から探ってみようと考えた。

調査の設定はメルマガから配送される広告である。携帯広告というと SMS を利用した迷惑メールが思い浮かぶが、これには多くのユーザーが受信を制限したり拒否したりして対応している。一方、メルマガの登録はかなり一般化していて、登録した時点で受信を許諾（オプトイン）しているから受信は拒否しないし、

調査設定により現実味がでる。こうして登録したメールサービスからメールが定期的に送られてきて、その中に懸賞やプレゼントの広告が含まれており、その応募には個人情報の登録が求められる、というシナリオを用いることにした。企業から要求される個人情報は、氏名や住所、年収まで答えさせるAタイプと、性別と郵便番号だけを答えさせるBタイプの二種類に分けた。これは「個人情報の 민감さ」に関する交互作用 (moderation) を検討するためである。

調査モデルは、プライバシーの漏洩不安に関する様々な因子を因果関係でつなげたものである。

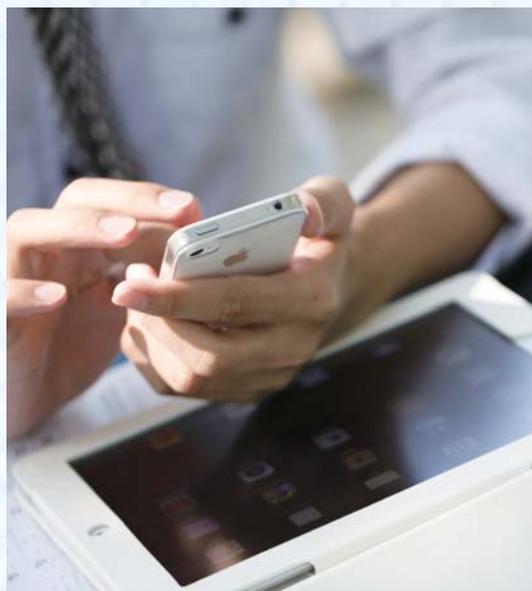
第一の要因は「過去の経験」である。一度でも不快なメールを受け取ると消費者は用心深くなる。ペイパルの騒ぎがあってからネットで個人情報を求められてもめったなことでは応じなくなった。通常は利用しない無料の「ホットメール」アカウントを取得して、すべての登録にはこのアドレスのみを使っている。だからメルマガとはいえ、過去に嫌な経験があれば、消費者は身構えて懸賞の応募などにも慎重になる。

第二の因子は「プライバシー漏洩不安」である。これは企業の個人情報収集に対する消費者の認識・印象を問うもので、ジョージア工科大のマルホトラ教授の研究チームが提唱した理論に基づき、消費者が企業の個人情報収集に関して感じる「懸念」「自覚」「権利」を二次因子、「プライバシー漏洩不安」を一次因子とした高次因子モデルを仮定した。

第三の因子は「信頼性」である。これは第四の因子「リスク」と対峙するコンセプトで、受信したメルマガに掲載されている広告内容が広告主も含めて信頼できるものであるかと問う。信頼できないと認識されればリスクが高いということになり、懸賞の応募は見送られることになるだろう。「信頼性」と「リスク」に関する研究は多く、マーケティングや情報管理の分野から文献を拾った。

第四の因子は「携帯広告規制の厳しさ」で、これが最終的な従属変数である。広告規制を大まかに分類すると、「政府による法規制」「自主規制」およびその両方を用いた規制の三種類が存在する。このモデルでは、まず消費者が与えられたシナリオを読み、自らの「過去の経験」に照らし合わせた上で、広告内容の「信頼性」と「リスク」を判定し、最終的に望むべき「携帯広告規制の厳しさ」を選択する。

さらにモデルの仕上げとして、携帯インターネッ



トの最も重要な特徴である「ユビキタス」を二次因子モデルとして提唱し、その交互作用も調べることにした。二次因子としたのは「ユビキタス」を「時間 (いつでも)」と「空間 (どこでも)」の「遍在」として理解するためである。驚いたことに既存研究には「ユビキタス」を尺度として提唱したものはなく、本研究がその先駆けとなった。

一般消費者510名から収集したデータを下に、モデルを部分最小二乗 (PLS) 回帰で分析したところ、ほぼすべての仮説 (仮定した各因子間の関係) が証明された。研究の詳細は、世界有数の広告学術誌である Journal of Advertising の2009年冬号に掲載されている。内容への反響も多く、各国の研究者から様々な問い合わせを受けた。Google Scholarによれば現在までの引用数がすでに32と報告されている。本研究のテーマとなった「プライバシー漏洩不安」はその後QRコードなどの分野に応用され、今も研究が継続されていることを報告しておきたい。

最後に、こうした萌芽的な研究を実施するチャンスを与えてくださり、寛大な助成をいただいた KDDI 財団に心からお礼を申しあげたい。



Journal of Advertising の  
2009年冬号

# カリフォルニアの 青い空の下で

京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻  
石川 恵理奈 Erina Ishikawa



## >>> 米国への研究留学

私は現在、京都大学大学院情報学研究科の博士後期課程1回生です。2012年の10月より米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）にて客員研究員として留学中です。滞在は1年間の予定で、この原稿を執筆している時点では既に約3ヶ月間をこちらで過ごしたことになります。研究についてはまだスタートしたばかりですが、この3ヶ月間を通して既にたくさんの新しい出会いや驚きがありました。これらについて私が感じた事を述べさせていただきますと思います。

## >>> 減少する日本人留学生

まず私が最初に驚いたのは、キャンパス内で沢山のアジア人留学生に出会ったものの、日本人留学生が予想していたよりもぐんと少なかったということです。私の個人的な印象だけにとどまらず、実際に文部科学省が集計したデータを参照しても「日本か

ら海外への留学者の推移」は2004年にピークを迎え、あとは右肩下がりであることがわかります。そして、これと呼応するかのごとく「日本人の書く論文総数」についても、同様に2007年ごろから急激に減少しています。これに対し、中国、韓国をはじめとする他のアジア諸国においては、海外留学者数、論文数どちらについても順調に増加しています。日本だけが、置いてきぼりになっているのです。

このような状況に至った要因としては、様々なものがあると思います。日本人学生が留学を諦める個人的な理由としては、「英語が苦手だから」「就職活動と重なるから」「お金がないから」などでしょうか。私も研究者を目指すまでは、あまり外向き志向ではありませんでした。私がこうして、1年間の留学を始められたのは、京都大学での指導担当である教授のご理解と後押しがあったおかげです。また幸いにも KDDI 財団からの助成に採用いただき、その他様々なご縁に恵まれたからこそその結果です。それなので、自分を棚上げて偉そうな事は申し上げられません。実際に留学を始めてみて、やはり日本の学生はもっと積極的に世界を知らなければと改めて実感しました。もはや、危機感を持たなければならぬ時期にさしかかっているとさえ考えています。

## >>> アカデミアにおける日本の存在感

かつては「科学技術大国」、「ものづくり大国」などと謳われたものですが、現在の科学技術分野における日本の国際競争力の低下は議論の余地もありません。そして、それは産業的分野だけではなく、学術的分野においても同様です。私個人の視点としては、



研究室のメンバー(前列右から3番目)

特に学問の分野において他のアジア諸国がぐんぐんと存在感を示しているのに対し、日本の存在感は次第に薄れていっているように感じます。

私はこの留学を開始した直後、米国にて行われた国際会議に参加しました。会議の規模はそれほど大きくはなく、日本人も多く参加しているようでした。それにもかかわらず、会場で出会った海外の研究者や学生に日本から来たことを告げると、必ず「日本人？初めて会ったよ」と言われました。日本人学生はとてもシャイで人見知りであり、国際会議などの場においては身内だけで固まってしまう傾向にあります。日本人だけが日本語で話しているグループには、決して誰も話しかけられないでしょう。これはとてももったいないことです。私自身はその会場で数名の日本人学生に出会いましたし、とても真面目で優秀だと見受けられましたので、彼らが認識されないのはなんとも残念だというように感じました。

## >>> 米国の研究環境

米国の年度始まりに合わせて、秋からの留学開始を計画していましたので、京都大学の修士課程において半年短縮して秋期修了をする必要がありました。私は決して優秀な学生ではないため、そのかわり寝る間を惜しんで研究に励みました。この時期においては、深夜に鏡に向かうと、鏡の中の自分がまるで自分と違った動きをしているように感じざつとした事が多々ありました。これは疲労のため筋肉の反応が鈍り、脳内でイメージした動きと実際の筋肉の動きにズレが生じたからだと考えられます。また他にも、少し仮眠をとろうと思い研究室の椅子に眠っていると、金縛りにあった事もありました。このように、カリフォルニアの青い空のもとで1年間学ぶという切符を手に入れるためには、それなりの努力が必要でした。

しかし、まだ3ヶ月間しか過ぎておりませんが、既にそれだけ努力をする価値はあったと強く感じて



大学図書館からの景色

います。私にとって何もかもが新しく、価値観が揺さぶられる日々です。こちらでは、たとえ学生でも一人の独立した研究者として扱われます。一人一人が何をするか自分で決め、時には学生間でコラボレーションし、教員の指示や了承を待つ人はいません。しかしながら、「指導」という形式はありませんが、求めればすぐに議論の時間をとってご助言で意見等を下さいます。その他にも、ミーティングは出入り自由であるし、教授と学生間はファーストネームで呼び合うなど、日本式に慣れ親しんだ私には驚くことは多いです。

## >>> 日本人としての誇り

実際に滞在してみて、私はサンタバーバラを大変気に入りました。気候が良く、美しい自然にあふれ、生活は快適で人々も優しく、のびのびと学ぶことができます。しかしながら、日本の文化・生活様式、日本人の真面目さ勤勉さを改めて素晴らしいと感じることも多々あります。かつて、フランシスコ・ザビエルは次のような言葉で日本人を表現しています。「日本人は、総じて良い素質をもち、悪意がなく、交わってすこぶる感じがよい。かれらの名誉心は特別強烈で、かれらにとっては名誉がすべてである。どのような強大な艦隊にも辟易しない。」日本の学生は少しの勇気を出して、多少の苦勞をしてでも、もっとどんどん外に向かっていかなければいけません。一合とっても武士は武士だという気持ちで、たとえ経験が浅く学位を持たない学生にすぎなくても、一人の研究者として誇りを持ち主体的に行動することが大切だと思っています。



# 夢を実現するために チャレンジしないと

筑波大学大学院 人文社会科学研究科 国際地域専攻  
TSOY Tatyana (ウズベキスタン)



私は、ウズベキスタン、フェルガナ市に朝鮮系家族に生まれ、高等教育を受けるのをいつも憧れていた。高校を卒業してから、ウズベキスタンの首都であるタシケントへ移動し、タシケント国立東洋学大学に入学した。その大学には中央アジアでランキングの高い日本語講座があり、日本語をゼロから学ぶようになった。

## >>> 日本人が好きになったきっかけ

第二世代の朝鮮族なのにウズベキスタンの多民族の社会と文化が大好きであり、ウズベキスタンでいろいろなサービスと生活施設が向上すればいいなと思いつつ、日本語学科を専門として勉強をするときに JICA の看護教育改善プロジェクトと地すべりモニタリング技術向上支援プロジェクトに通訳者として参加したのをきっかけに、先進技術と日本人のビジネスカルチャに興味を持つようになった。

## >>> テクノロジーと情報通信技術に興味を持ったきっかけ

日本先進テクノロジーはウズベキスタンの発展段階でのテクノロジーと比較できないものであり、ウズベキスタンでは先進テクノロジーに関わる知識を得る機会はなかなかなかったので、日本で教育を受けることを目指すようにした。けっきょく修士をとってから2009年にはじめて日本に来て、筑波大学で JASSO の研究生として留学した。たぶん様々なロボット環境があるつくば市と筑波大学の影響で文系である私は、ロボットと先進技術に興味を持ち始めたと思う。先進テクノロジーとロボットを理解するためにつくばロボットサークルに参加していた。そのなかでは特に毎日使っている情報通信技術に興味深かった。社会と情報通信テクノロジーに関わる理解を深め、研究をするために進学しようと思いつつ、筑波大学の英語特別中央アジアマスタープログラム (SPCA) に入学試験で合格



(写真左) 2000年以上の歴史を誇るサマルカンド市。(中央) 歴史と現代が共存する首都タシケント市。(右) 十二単衣体験(つくば市)



(左上) 筑波大学にて行ったウズベキスタン日本学生学術フォーラム〈タシケント国立東洋学大学の学長と出身大学からの留学生〉。

(右上) ラジオつくばではじめて出演です。

(左下) 私とネコ店長というロボット〈インターンシップ〉。

(右下) 私と筑波大で出会った夫のイブゲニと一緒に筑波大学の授与式。

をもらい、先進国である日本で教育を受ける機会があることでとても嬉しかった。そのため、SPCAで社会学、国際関係論、政治学、メディアなど勉強しながら、研究テーマとして情報通信の1つの媒体であるホームページとコーポレート・アイデンティティに関わることを選び、まったく新しい分野にチャレンジしてみた。

### >>> 留学生が研究するチャンスに感謝

SPCAで勉強するはじめてから文部科学省の奨学金をもらったのだが、奨学金を延長できなかった。日本では生活費と学費が高く、アルバイトをしながら研究に十分に時間を割けなく心配していた。

アルバイトは研究の時間がかかってしまったのでさまざまな奨学金財団に申請しようと思ったのだが、国籍と資格によりいろいろな奨学金財団に申請できなかったのだ。研究はインターネット上のテクノロジーと企業に関わるテーマがあったので幸運にも私と同じく情報通信と社会の関係にかかわる活動をしているKDDI財団に申請し、奨学金をもらい、研究のほうが安心した。KDDI財団のご支援で研究を進めるのに必要なソフトと資料にアクセスができ、研究を実現することができた。

研究の一番大事な期間にKDDI財団のご支援のおかげでいい環境ができ、研究のことに集中することができてデータを分析し、面白い結果が出、研究の発表も成功した。留学生が高等教育を受けるチャンスがあり、とてもありがたい。KDDI財団のみな様へ心より感謝申し上げます。このようなご支援なしで、研究を無事に終わることができなかったのだろう

と思われる。

また筑波大学ですべてサポートと指導をもらった3人の指導教官に厚くお礼申し上げます。筑波大学で得られた先進テクノロジー・情報通信と社会にかかわる知識を磨きながら社会を改善し、少しでも貢献するのを目指している。

### >>> もっと日本人が好きになったきっかけ

日本留学の経験では日本文化をはじめ、学習、生活、人間関係など貴重な経験ができ、少しでも自分が成長したと考える。

日本にいた間に筑波大学修士課程で勉強したときにウズベキスタン日本学術フォーラムで日本在学しているウズベキスタン留学生の代表として選ばれ、積極的に活躍をし、次にラジオ放送にも参加し、それからロボット競技にかかわるつくばチャレンジでインターンシップなど体験しながらチームワークと分担のやり方の効果が分かるようになった。

また東北地方太平洋沖地震で痛ましい災害を受けた方へ全日本だけではなく、海外からも様々な国々の人々が悲しさと同情を感じたと思う。2011年3月11日、私の住んでいたつくば市は少し被害を受け、日本人は親切に留学生へ支援をあげ、暖かい扱いを感じた。日本人の強い精神と素晴らしい勇気を賞賛し、より日本と日本人が好きになった。日本に来てから初めて強い台風、竜巻、大地震を体験し、いつも親切な日本人に助けをもらい、日本人の暖かい人間関係を大切に、これからもそれを基準としてアクションし、チャレンジし続けながら、頑張っていきたいと思う。



# 印刷されている文字を読むことが 困難な方に、 生活に必要な情報を！

特定非営利活動法人 ういすたりあぶつく 代表  
藤本明成 Akinori Fujimoto



「視覚障がい者」と聞いて、まずは何をイメージされるでしょうか？おそらく“点字・白杖・盲導犬”が思い浮かぶことが多いと思います。もちろんそれらは必要なものですが、文字手段では「点字の触読が困難な方が多い」などもあり、今では「音声操作でのパソコン・携帯電話が重要な情報ツール」となっています。

一般向け携帯電話・スマートフォンの中には音声機能のある機種もあり、高齢者・読字障がい者ほかにも活用されています。これは障がい者向けの特別仕様ではありませんので、アクセシビリティを身近に感じることができます。

ハード面の環境が整っていますので、後は「音声に対応したデータ形式で必要とされる情報を提供」すれば目的とする視覚障がい者の生活情報支援が可能になります。



“auケータイ”活用セミナー

私は26歳で突然眼の病気になり、30歳頃には文字を読むことが困難になっていました。途惑う時期もありましたが、13年ほど前から“音声で操作できるパソコン”、“OCR(画像から文字を認識するソフト)”などを利用するようになり、大幅に生活を変えることができました。

当時は、「点字が読めなければ社会復帰が不可能」とも言われましたが、その後音声でのパソコン利用が広がり、WEBアクセシビリティ、著作権法の改正なども進み、デジタル図書も増えています。更には事務職などの就労に着ける方もおられ、随分世の中が変わったと感じています。

誰もが「高齢になれば文字が読みにくくなる」ことは想像できますが、「働き盛りに失明する」ことまでは予測できることはありません。しかし、「病気がけがにより見えなくなる」ことは誰にでも起こりうることです。決して他人事ではありません。

視覚障がい軽度となっても、訓練や環境に慣れることである程度自力で行えるようになります。しかし、様々な情報から閉ざされていますので、生活上の代読など、文字情報の支援は常に必要です。

日常生活で使用する食品や生活用品のラベル・パッケージには、商品の特長、使い方などの記載がありますが、「何が書かれているのかが判らないまま頻繁に利用しなければならない状態」にあります。

そこで、「表示情報をWEBを利用して知ろう」とします。しかし膨大な検索結果の中から音声のみで目的の情報を探すことはなかなか困難ですし、多くの場合読めないのです。

また、「画像を撮り、文字データ化 (OCR) して音声化ソフトで聞く」ことを試みます。しかし

- ・ ボトルなど、商品の形状によってはラベルが読みとれない。
- ・ 複雑な色柄・レイアウトなどで、OCRでの認識が不可能。

こうしたことから「周りの手助けが必要となる」のですが、常に支援者が居るわけでもないので「読める(認識する)範囲で読んでいく」のが実態です。

注意しなければならないのは自らで確かめる手立てが無く、ほとんどの場合、「正確に認識できていない、重要な部分が読めていないことに本人が気付いていない」ことであり、“非常に危険な状況!”とも言えるのです。

これまでのアンケートの結果でも「食品や日用品など、生活必需品の商品情報・注意書き・使用方法の内容」を望む声が強くなり、『“安全な生活”のためにも求められている情報』といえます。

今回の事業では、「日常生活に不可欠な“商品ラベル・パッケージなどの記載情報”を文字データ化し、視覚障がい者の方々が音声で読めるようにする”活動”を行ってきました。(右記サイト)

もちろん紹介できるのは膨大な商品の中のほんの一部ですが、データの中にはほとんどメーカー公式サイトへのリンクがありますので、他の商品情報へのアクセスも簡単になりますし、直販サイトの利用が可能なものもあります。

この事業を進めるにあたっては、「個々の商品についてそれぞれメーカー側から了解を得た後に公開する」という手順を踏んできたこともあり、準備した情報の全てを公開するに至りませんでした。

“消費者に必要不可欠な情報”が、文字が読めなくて困っている方になぜ自由に提供できないのか?と思われるかも知れませんが、現行著作権法では、「障がい者の利用を目的(または限定)とした場合」であっても著作物の自由な編集・提供ができる施設(場合)は限られています。それが営利を目的としない場合であっても同様です。

この情報提供により、これまで商品紹介ページに視覚障がい者の方からのコメントが書き込まれたり、個人のブログで紹介されるようになってきています。

また、「視覚障がい者の情報支援」を目的として始めた活動ですが、高齢者や日本語圏以外からの利用や



[http://wistariabook.net/text\\_info\\_list#text\\_info\\_menu](http://wistariabook.net/text_info_list#text_info_menu)

問合せもあり、“読上げ、拡大/縮小、色変更”ほか、閲覧者(利用者)側からの自由度の高さとWEBの優位性が見えてきています。

世の中には、安全で幸せな生活のため、日々研究・工夫をこらした製品・サービスが数多くあり、様々な形で情報発信されています。

障がいの有無に関わらず、誰もがこれらを有効に活用できれば、便利で豊かな日常生活を支える必要不可欠なものとなるに違いありません。

見えなくなれば情報の8割が遮断され、できることが限られてきます。「見えない人は何もできない」と思われがちですが、「見えなくても自らで判断・行動ができるための情報がほとんど無い」のも実態です。

その一つとして、まずは「日常生活における商品の情報を読める」ことが視覚障がい者の方々の生活を豊かにし、自立を助ける一歩と考えています。

今後数年先には『合理的配慮』という言葉が一般に出てくると思われます。そして、「障がいのある人も無い人も互いに助け合う豊かな社会」が実現されることを願っています。

最後に、今回この事業をご支援いただきましたことを心から感謝申し上げます。

2012年度助成援助事業を除く、その他の活動は以下のとおりです。

## ◎海外研修

### APT (APT 計画 J1)

- コース名** ルーラル地域向けの小規模通信
- 参加数/人数** 10ヶ国/10名
- 期 間** 2012年10月31日～11月9日

---

- コース名** ブロードバンド通信のためのサイバーセキュリティ政策・技術
- 参加数/人数** 12ヶ国/12名
- 期 間** 2012年11月28日～12月7日



## ◎デジタルデバイド解消パイロットプロジェクト

### マーシャル諸島

- 件 名** 継続可能でエコ・フレンドリーな ICT テレセンターを通じた生計の機会創出と文化保護
- 実施期間** 2012年4月～2013年3月
- 実施場所** マジュロ環礁、メジット島
- メンバー** マーシャル諸島:運輸・通信省、教育省、保健省、国家通信局、他  
日本: KDDI 財団、KDDI 株式会社
- 実施概要** これまで、メジット島と首都マジュロ間の通信は、短波無線による音声通話のみであり、高度化が望まれていた。本プロジェクトでは、衛星通信 (DAMA) と離島通信に最適な安価なフェムト基地局を応用した極少回線用 (数回線) の GSM 携帯通信を組み合わせることにより、メジット島とマジュロ間を接続し、同島からの音声通信、インターネットアクセス等のデータ通信を利用可能とした。併せて、地元住民への各種アプリケーションを有効に活用してもらうためのデモンストラーションを実施した。

### ブータン王国

- 件 名** ルーラル地域での広帯域ユーザーアクセスのための、WiMAX などのパイロット導入
- 実施期間** 2012年4月～2013年4月
- 実施場所** 首都 (チンブー)、ウラ村、プブジカ谷、センガナ村
- メンバー** ブータン王国通信省、地方政府、健康省、教育省、タシーインフォコム他、KDDI 財団
- 実施概要** ブータン王国通信省と共同で APT に提案し採択されたパイロット構築プログラムである。ブータン王国のルーラル地域3カ所において、WiMAX 網、WiFi ハンドオーバー網、光ファイバー網のパイロット網を構築し、広帯域通信技術と広帯域アプリケーションの有効的活用の実証実験を実施した。今後、これらの実証、実績と取得知識により、ブータン王国の広帯域網拡大整備などの通信施策を推進していくことになる。

### ミクロネシア連邦

- 件 名** 隔離された離島の診療所へのテレセンターの構築と施策の評価 / 研究
- 実施期間** 2012年3月～2013年4月
- 実施場所** ヤップ州ウォレアイ岩礁、首都 (パリキール)、東京および近郊
- メンバー** ミクロネシア連邦 運輸通信インフラ省、健康省、ヤップ州政府、離島自治体など、KDDI 財団
- 実施概要** APT の人材育成プログラムにミクロネシア政府と共同提案 / 採択され、交通や通信が隔離されているヤップ州の離島の診療所と地域コミュニティを小型衛星通信設備にてインターネットなどの通信が確保できるようにテレセンターを構築・整備した。主な課題は、現地の人が継続して活用できるように、地域政府と継続の仕組みを構築することであった。

### モンゴル

- 件 名** モンゴル国の国有衛星所有に関する調査研究
- 実施期間** 2012年3月～2013年4月
- 実施場所** モンゴル国ウランバートル、日本
- メンバー** モンゴル国情報技術郵便通信庁、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、情報通信研究機構 (NICT)、KDDI 財団他
- 実施概要** モンゴル国では、自国にて衛星通信と探査衛星を所有することを計画している。そこで、APT の人材交流プログラムを活用して、衛星の特性 / 所有 / 打上 / 運用などに関する実運用に必要な情報の共有を行うため、モンゴル政府と共同提案 / 採択され日本の関係組織等と研究・調査を行った。参考までに、日本の衛星の紹介プロジェクトとも連携を行っている。

## ナウル共和国

- 件名** ナウル国リソースセンター関連専門家調査
- 実施期間** 2012年9月
- 実施場所** ナウル島
- メンバー** ナウル国運輸通信省、教育省、メディア省他、KDDI財団
- 実施概要** 磷鉱石で豊かだった国がその枯渇により一挙に途上国になった国、かつ通信業者が倒産するという特異な状況下で、如何にICTを活用して国の再生をしていくかを調査/検討するためにナウル王国現地にて、関連情報の調査・聴取および手法についての議論と提案を実施した。また、その一環の最初の活動として、APTの人材育成プロジェクトの活用検討とその共同提案書を作成しナウル国からAPTに来年度実施の提案書が送出された。

## ◎チャリティコンサート

### チャリティコンサートクラシック 2013 開催

- 目的** 収益金や募金をNGO World Assistance for Cambodiaに寄付し、カンボジアに学校を建設して子供たちの教育支援を行う。
- 日時** 2013年2月26日(火) 19:00 開演
- 会場** 紀尾井ホール(千代田区紀尾井町)
- 出演者** 角田鋼亮(指揮)、寺沢希美(ヴァイオリン)、東京交響楽団
- 曲目** モーツァルト ディヴェルティメント K.136、ヴァイオリン協奏曲 5番 K.219「トルコ風」、交響曲 40番 短調 K.550

## ◎カンボジアにおける学校建設

### The Khy Lek KDDI School (キレックKDDIスクール)

- 所在地** カンボジアバンテミアンチャイ州キレック村
- 教室数** 3教室
- 生徒数** 311名
- 開校式** 2013年1月16日

## ◎MCPCモバイルシステム技術検定試験対策講習会

- 一般** MCPCモバイルシステム技術検定1級試験対策講習会(春秋計6回/受講人数:165名)  
MCPCモバイルシステム技術検定2級試験対策講習会(春秋計2回/受講人数:51名)
- 個別** MCPCモバイルシステム技術検定2級試験対策講習会(春秋計3回/受講人数:約500名)  
MCPCモバイルシステム技術検定2級試験対策補講(秋1回/受講人数:80名)  
合計約800名

## ◎政府開発援助(ODA)に基づく コンサルティング業務

### カンボジア王国

- 件名** カンボジア国メコン地域通信基幹ネットワーク整備計画(CP-P5)  
(Greater Mekong Telecommunication Backbone Network Project)
- 実施期間** 2007年12月~2015年10月(予定)
- 円借款額** 30億2,900万円
- 実施機関** テレコムカンボジア(TC)
- コンサルタント** KDDI財団(プライム)、株式会社アイエスインターナショナル(計13名)
- プロジェクト概要** 本プロジェクトは、コンポンチャムから首都プノンペンを経てシハヌークビルに至る光ケーブル基幹伝送路(460km)、およびプノンペン市内のメトロリング(30km)、並びに光アクセスラインを沿線の主要都市に構築し、最新のNGN次世代通信システム(IMS:IP Multimedia Subsystem)を導入するものである。これにより、今後の経済発展に必要なブロードバンド回線、通信インフラの拡充を図るものである。当財団は、株式会社アイエスインターナショナルとコンソーシアムを組み、カンボジア国の通信事業者であるテレコムカンボジア(TC)社と、メコン地域の通信基幹ネットワークの整備事業に係わるコンサルティング業務契約を締結し、2007年12月から業務を開始している。設備の運用開始予定は、2015年10月である。事業完成時には、カンボジア国の基幹通信インフラとして通信網の広帯域化、安定化の要望に応え、同国の発展に大いに寄与することが期待されている。

### ベトナム社会主義共和国

- 件名** ベトナム国南北海底光ケーブル敷設計画
- 実施期間** 2005年1月~2015年10月(予定)
- 円借款額** 194億9,700万円
- 実施機関** ベトナム郵電公社(VNPT)
- コンサルタント** (財)海外通信・放送コンサルティング協力(プライム)、KDDI財団(計10名)
- プロジェクト概要** 本プロジェクトは、ベトナム社会主義共和国において、急激な経済発展やIT化に伴い、今後益々増大する通信需要の円滑疎通と、高信頼・高安定な通信ネットワークの整備拡充を目的とし、南北間の主要都市を結ぶハイフォン~ソックチャン間に、約2,000kmの海底光ファイバーケーブル、および11ヶ所の陸揚局等を建設することにより、ベトナムの通信需要の増加への対応、および信設備の信頼性向上を図る海底光ファイバーシステムによる基幹伝送路を構築するものである。当財団は、(財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)とコンソーシアムを組み、ベトナム郵電公社(VNPT)より、コンサルティング業務を受注し、2005年1月から業務を開始している。設備の運用開始予定は、2015年10月である。

# Message from Myanmar

“Myanmar, its beauty and its nature”

Shwe Dagon Pagoda (Yangon in Myanmar)



## Saw Htoo Thar

Assistant General Manager,

Communication Compound,  
Bago Division,  
Myanmar Posts &  
Telecommunications (MPT)

Born and brought up in Myanmar, I have grown up among the lovely people who have their own culture, customs and traditions and also a good habit of helping each other out with united efforts in face of difficulties. Myanmar can also boast of unspoilt nature environment at its best and moderate climate. We also possess rich nature resources both above and underground. For the future, we have aspirations of becoming a modern, developed, democratic nation that can stand proudly in the world of today. Having plenty of golden stupas and pagodas, we have even earned the name “The Golden Land”.

In response to the invitation by KDDI Foundation, I attended a training course in Rural Communication in Tokyo, Japan, from 18-1-2012 to 27-1-2012. I witnessed the good-willed help and hospitality of the Japanese. I also came to know that KDDI Foundation is a non-profit organization working toward a noble cause. KDDI, with pure good will, shares its technical know-how with people of other nations, regardless of nationality, religion and country, without any selfish, egoistic conceit for its ingenuity.



Ice Mountain (Kachin State in Myanmar)

As for me, I sincerely wish that KDDI would not only give sheer technical know-how, but make investments and assistance in where there is need, based on our culture, customs and traditions. I am absolutely convinced that all members KDDI will give their physical, financial and technological contributions to developing countries with humanitarian mindset.

I wish that KDDI would not only know us theoretically but to join hands with us our long term journey to democracy, knowing our regional features, natural environment and cultural facts.

I don't think I am going too far in saying that our natural beauty is a wonder of the world. Forest rich in natural resources, underwater resources, rivers and creeks and religious buildings are insatiably endless for sight-seers. Once here, you will thirst for more and more visits.

I would like you to know that there really exists such as beautiful country in our Asia. Much as I admire the beauty to Japan, I would like you to enjoy the beauty that is a nature's gift to us. Thank you, KDDI and the people of Japan!



Pagodas (Bagan in Myanmar)



Myanmar Festival (Shan state in Myanmar)



Rih Pond (Chin State in Myanmar)

ミャンマの天然と美しい。

私はミャンマに生れてミャンマに生んでいます。  
ミャンマには可憐な木蓮は文化、歴史、守りにかけています。  
ある人と問題が有たらみんなが助け合える事もありです。

天然の美しさも、美しい環境も、美しい水源も、美しい。  
その環境で新しく出来る様に出来るように、チベットの方にも向いており、バグダも多いため、ヒルマは「GOLDEN-LAND」と呼ばれています。

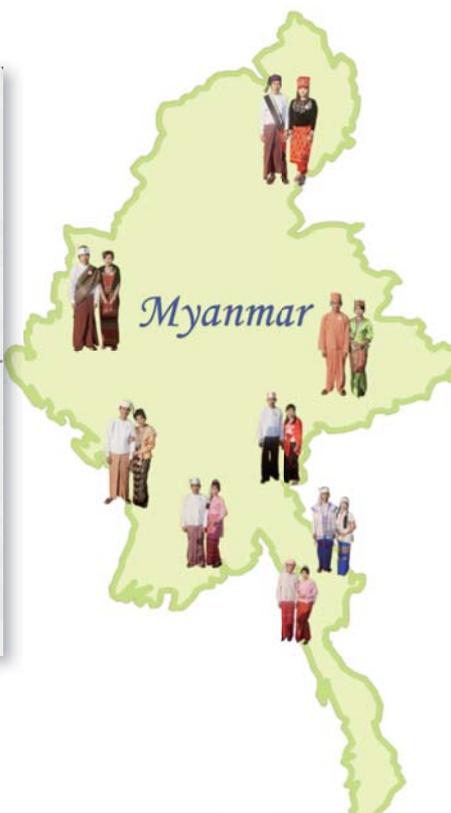
私は「KDDI」の恩で「18-1-2012」から「27-1-2012」まで日本（東京）へ来て村通信の勉強をしました。日本人の親切な事も自分で知りました。「KDDI」は人種、宗教、国などを区別しない発展途上国に助けているのは本当に有り難いです。

アジアにいた若者ならも自分の方式と「KDDI」の方式を合せて新しく出来るようにつづき出すと、信用してあります。

KDDIは方式はわりと簡単でミャンマの文化や歴史などを合せて手伝ってもらいたい。ミャンマに来てチベットと国のため、働きましょう。世界でミャンマの天然と美しい「毎日」は言葉、話が大好きだと思わないで下さい。  
とにかくミャンマに来てもらいたいです。

「KDDI」にもよろしくお礼言います。

筆者作成の日本語原稿



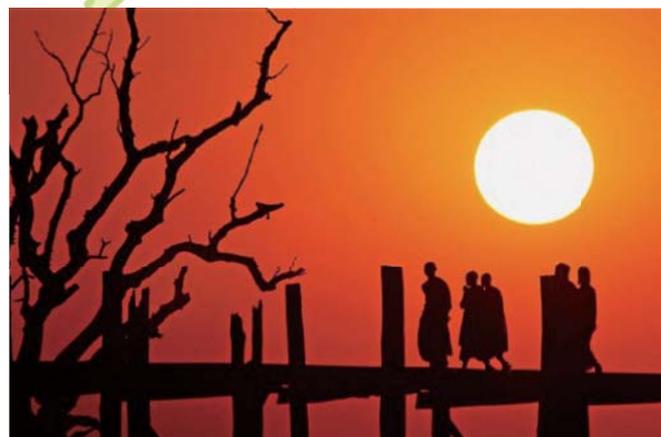
Jewelry Museum



Rice Field (in Myanmar)



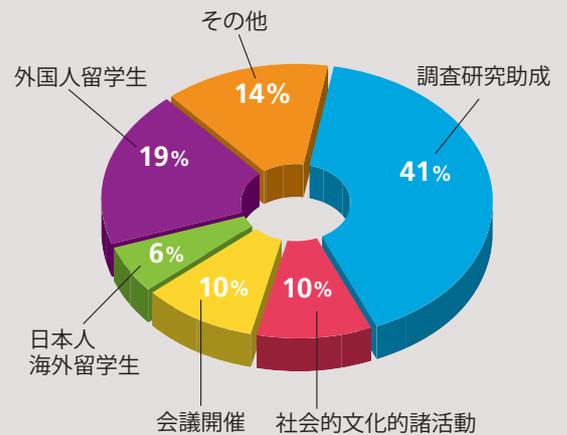
Inn Lay lake (Shan State in Myanmar)



U Bein Bridge (Madaly in Myanmar)

## ◎ 2012年度 助成・援助の構成比

助成総額：63,981千円



### 編集後記

最近テレビや雑誌で「途上国で活躍する日本人」をよく目にしますが、この1月、私もカンボジアでそうした日本人の方々とお会いする機会がありました。共通して言えることは、みなさん力むことなく自然体で楽しそうに活動されていること。自分の責任において、自分で考え、自分で行動することの大変さはあると思いますが、でもその充実感は図りしれないことでしょう。それと、たまたまでしょうか、お会いしたのはなぜか女性ばかりでした。にこやかでたくましい大和なでこたち。弊財団初の「日本人留学生助成」でアメリカに留学されている石川さんの報告 (P.10) に、日本からの海外留学人数が減少しているりましたが、件の女性たちのように、何か目的を持って海外に出ていく人がどんどん増えるとういと思います。そういえば、石川さんも女性ですね！（理）

KDDI Foundation Vol.4

発行／2013年4月1日

編集・発行責任者／梅澤 由起

公益財団法人 KDDI財団

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋 3-10-10

ガーデンエアタワー 6F

Tel:03-6328-3030 Fax:03-6328-3053

Email: office@kddi-foundation.or.jp

http://www.kddi-foundation.or.jp

設立：2009年10月1日 出捐：KDDI株式会社